

第50期

株主通信

2017年4月1日～2018年3月31日

証券コード：7775

Open the Medical Frontier



12期連続増収

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、格別なるご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。ここに、2018年3月期決算と事業の状況をご報告申し上げます。

代表取締役社長 **山田 満**



当事業年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善などが見られ、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、海外においては、米国や中国の財政・金融政策の動向並びに東アジアを始めとする世界各地の地政学的リスクの高まり等により先行き不透明な状況が続いております。

また、当社を取り巻く事業環境は、高齢化の進展による手術数の増加、院内感染や医療事故防止対策の推進により、医療消耗品のニーズの拡大が続いております。

しかしながら、増加の一途をたどる医療費の抑制を目的とした医療制度改革が進められ、各医療機関の経営環境はより一層厳しさが増してきており、医療現場においてより効率的で効果的な医療サービスを提供できるような製品供給体制が望まれております。

このような状況のもと、当社は、高品質製品の常時安定供給を優先事項と掲げ、医療現場と密着した営業活動の推進、品質を確保しながらもコスト競争力をもった生産体制の構築並びに独創的な製品の研究開発活動の強化に取

り組んでまいりました。

この結果、2018年3月期の決算は、主力の吸引器関連において病棟用の吸引器であるキューインポットが好調に推移したこと等により、売上高は85億85百万円(前期比2.2%増)となりました。一方、当期より新工場が稼動したことに伴う減価償却費などの固定費の増加及び新製品開発の推進に伴う研究開発費が増加したこと等により、経常利益は15億04百万円(前期比12.3%減)、当期純利益は10億12百万円(前期比18.8%減)となりました。

今後の当社を取り巻く環境は、医療費抑制の基調が継続し、医療機関の経営環境の悪化や国内外のメーカーとの価格競争などにより、引き続き厳しい状況で推移するものと思われます。このような状況のもと、当社の営業・技術・製造が一体となって市場競争力を高めるとともに、さらなる業績の向上、企業価値の増大に向けて邁進すると同時に、顧客にとって不可欠なパートナーであり続けることを目指して取り組んでおります。また当社が対処すべき

課題として以下のことに取り組んでまいります。

- ① 既存製品の拡充・新製品の開発
- ② 海外販売の拡充
- ③ 優秀な人材の確保、教育の強化
- ④ 品質保証体制の充実
- ⑤ 強固な企業体質の確立

こうした状況を踏まえ、2019年3月期の見通しといたしましては、引き続き主力商品の堅調な推移を受け、売上高は90億円(前期比4.8%増)を見込んでおります。

また、経常利益は、前期より稼動開始した新工場の固定費増加の影響に加え、現行品の改良や新製品の立ち上げに伴う減価償却費等の増加、研究開発の強化・促進による開発費等の費用増加の要因はあるものの、16億円(前期比6.4%増)を計画しております。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要経営課題のひとつと位置づけ、将来にわたる事業展開のための内部留保の確保と経営成績に裏づけされた成果の配分を中間及び期末配当の年2回行うことを基本方針としております。

この度、当社は、2017年11月5日をもちまして、創業

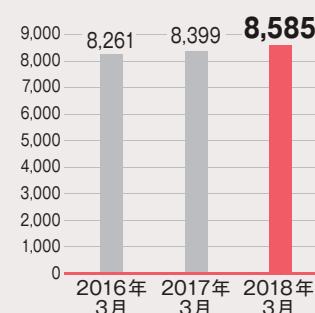
50周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様をはじめ、関係各位のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。つきましては、株主の皆様のご支援にお応えするため、創業50周年記念配当として4円を加え、2018年3月期の1株当たり配当額は年間25円(中間配当金9円、期末配当金16円)とさせていただきます。

なお、当社は、株主の皆様からのご支援に感謝し、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的として、株主優待制度を実施してまいりましたが、この度、株主の皆様への公平な利益還元のあり方という観点から慎重に検討を重ねました結果、現行の株主優待制度を廃止することといたしました。

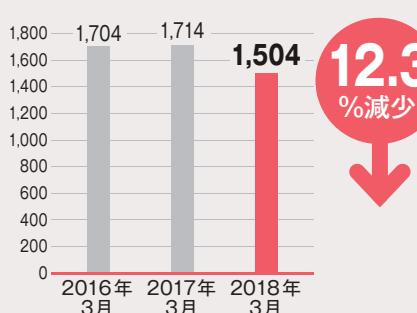
今後につきましては、剰余金配当を中心として株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要経営課題のひとつと位置づけ、企業価値の向上に努めてまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

株主優待制度廃止の時期につきましては、2018年3月31日時点の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有されている株主の皆様への贈答をもちまして廃止とさせていただきます。

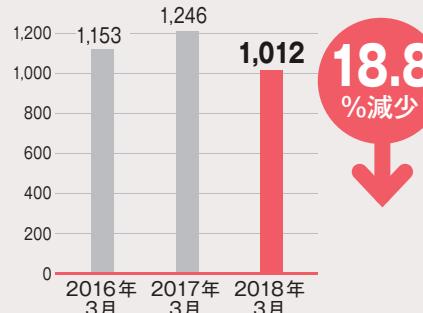
売上高(単位:百万円)

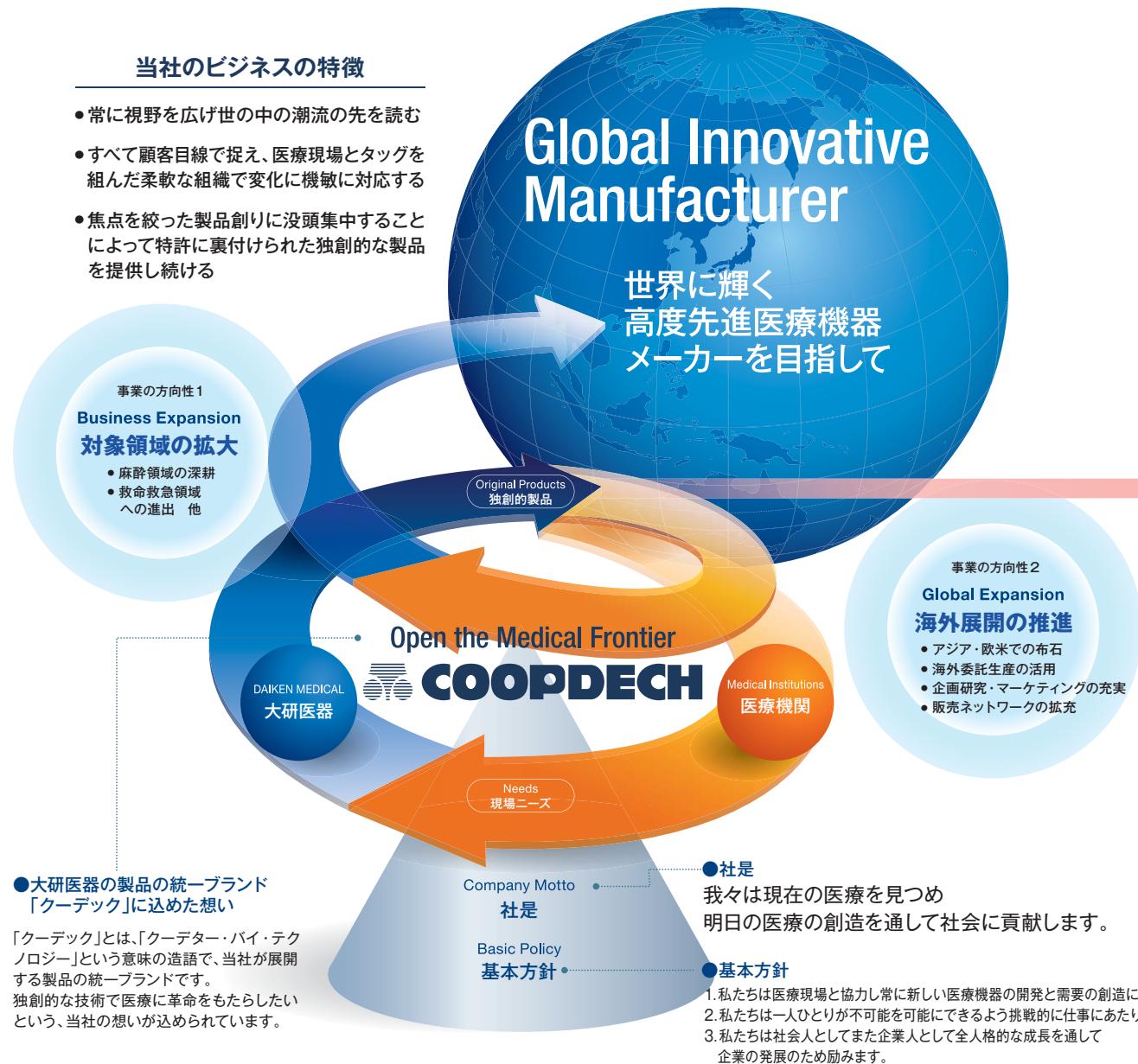


経常利益(単位:百万円)



当期純利益(単位:百万円)





当社のビジネスの特徴

- 常に視野を広げ世の中の潮流の先を読む
- すべて顧客目線で捉え、医療現場とタッグを組んだ柔軟な組織で変化に機敏に対応する
- 焦点を絞った製品創りに没頭集中することによって特許に裏付けられた独創的な製品を提供し続ける

最先端医療を支える独創的な製品を次々と開発

Suction

手術中の血液や体液等の廃液を吸収し、ワンタッチで凝固させることができます。凝固剤一体型で完全密閉のため、安心して移動・焼却処分が可能で、ウイルス等の院内感染予防に貢献します。



フィットフィックス

手術中に排出された血液や体液を吸収し、貯溜するディスプレイ吸引器。



クーデック キューインポット

軽量かつコンパクトな使い捨て吸引器。病棟で簡単かつ清潔に使用可能。

Pump

手術後の痛みやがんの痛みを軽減するため、麻酔等の薬液を常に一定の流量で注入します。大気圧やメカトロニクス技術を利用することで、理想的な流量精度を実現しました。またPCAを利用することにより、現場のニーズにあわせて鎮痛剤の追加投与が可能となりました。



クーデック シリンジエクターPCAセット

大気圧式のディスプレイ注入器。薬液投与量の記録管理等が可能。



クーデック シリンジポンプ

注射筒に入った輸液を注入する電動ポンプ。高い精度で多様な流量調整が可能。

Others

救急医療や手術室等で使用する様々な製品を作り出しています。今後は、低侵襲治療に係る最先端技術の開発や在宅医療等の新領域にも挑戦し、患者様のクオリティ・オブ・ライフの向上に繋がる製品を送り出していきます。



クーデック ダブルルーメン気管支チューブ

分離肺換気が必要な措置を行う際に使用される医療機器。



クーデック ステリキープIIザウバーゾーン

衛生的な手洗いに使用する、殺菌水製造装置。

クーデックの
充実設備!

高効率処理装置で有害ガス排出をブロック

医療機器製造に欠かせない滅菌プロセス。
この滅菌プロセスを確実にかつ効率的に実行するために導入した最新設備をご紹介します。

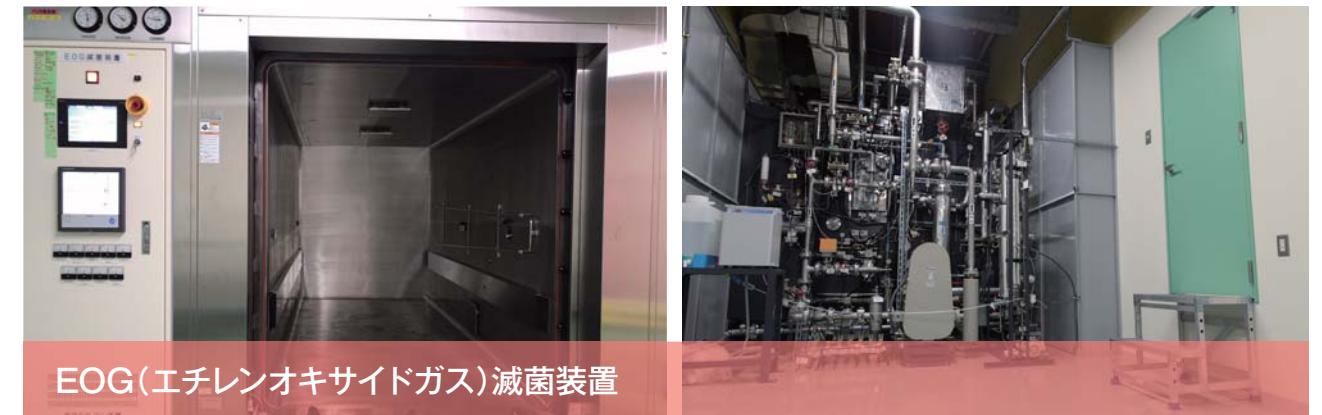


環境に最大限配慮した排ガス処理装置

当社は過去から「環境汚染対策」に先駆けて着目・率先した取り組みを行っており、新工場には先進的な排ガス処理装置(滅菌終了後のEOGを中和処理し無毒化した状態で大気解放するための装置)を設置しています。

旧来製の排ガス処理装置の殆どが白金触媒を利用した燃焼式処理装置で、必要電気量の多さ、年3回以上の白金触媒交換、排ガス処理能力の低さなど、反エコロジーともいえる欠点がありました。

こうした欠点を全て解消した最新型EOG排ガス処理装置の導入により、環境に対しても更なる「安心・安全」をコミットメントすることが可能となりました。

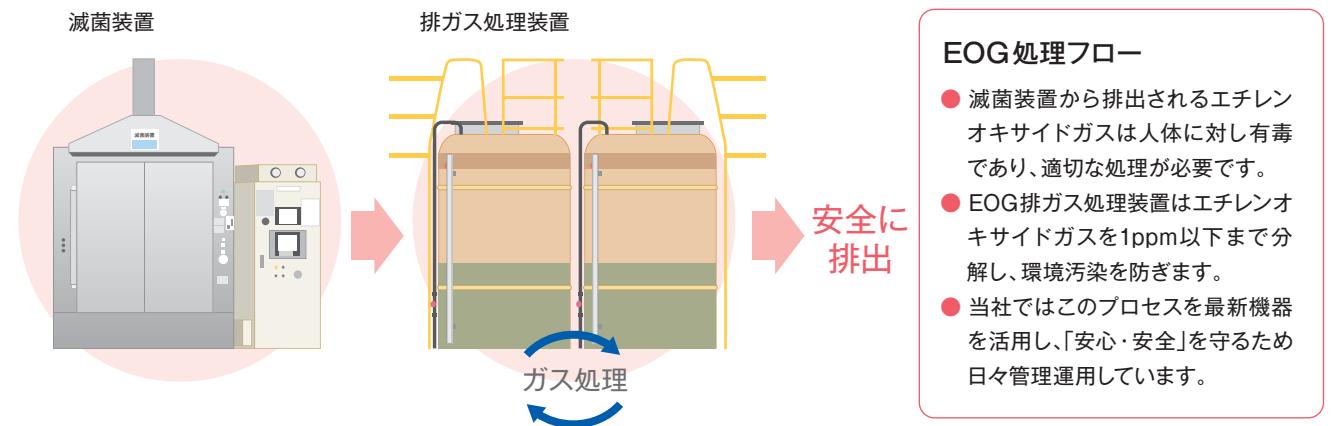


EOG(エチレンオキサイドガス)滅菌装置

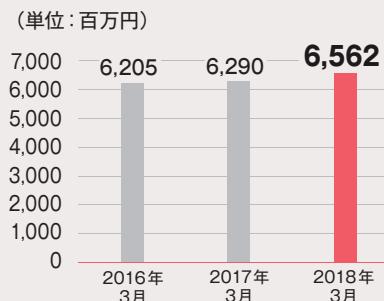
滅菌医療機器に欠かせない生産プロセスの一つ、「滅菌プロセス(工程)」。
EOG(エチレンオキサイドガス)による燻蒸処理を製品に施すことで、製品に付着する細菌を死滅させ無菌性を保証します。
滅菌装置は滅菌プロセス上において様々な処理を自動的に進めていくことから、複雑な配管や多種の測定機器などが組み込まれた精密機器の集合体といえます。
新工場稼働に合わせて当社が導入した最新の滅菌装置は、約10m³の缶内容積があり、当社だけの特別な「予防保全機能」なども有しています。
先進的な機能をもつ滅菌装置を駆使し、今日も医療現場へ「安心・安全」を最優先とした、質の高い製品を届けています。

EOG排気処理精度の比較

従来設備
99.99%のガス中和能力
新型設備
99.9999%のガス中和能力



流動資産 65億62百万円



流動資産は、前事業年度末に比べて272百万円増加し、65億62百万円となりました。これは主として、受取手形が83百万円減少したものの、原材料が144百万円、売掛金が107百万円、製品が67百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

純資産 66億94百万円



純資産は、前事業年度末に比べて584百万円減少し6,694百万円となりました。これは主として、当期純利益を1,012百万円計上したものの、自己株式の取得と処分により316百万円増加し、利益剰余金が剰余金の配当により809百万円及び自己株式の処分により364百万円、資本剰余金が104百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

貸借対照表(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2017年3月末)	当事業年度 (2018年3月末)
○資産の部		
流動資産	6,290	6,562
固定資産	4,717	4,574
有形固定資産	4,505	4,394
無形固定資産	61	45
投資その他の資産	149	134
資産合計	11,007	11,137
○負債の部		
流動負債	3,202	3,051
固定負債	525	1,390
負債合計	3,728	4,442
○純資産の部		
株主資本	7,272	6,689
資本金	495	495
資本剰余金	505	400
利益剰余金	6,781	6,619
自己株式	△510	△826
評価・換算差額等	1	—
その他有価証券評価差額金	1	—
新株予約権	5	5
純資産合計	7,279	6,694
負債純資産合計	11,007	11,137

損益計算書(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)	当事業年度 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
売上高	8,399	8,585
売上原価	3,991	4,359
売上総利益	4,408	4,226
販売費及び一般管理費*	2,696	2,720
営業利益	1,711	1,505
営業外収益	7	3
営業外費用	3	5
経常利益	1,714	1,504
特別利益	2	5
特別損失	19	146
税引前当期純利益	1,697	1,362
法人税、住民税及び事業税	431	375
法人税等調整額	20	△25
当期純利益	1,246	1,012

キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

科目	前事業年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)	当事業年度 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,350	1,255
投資活動によるキャッシュ・フロー	△603	△624
財務活動によるキャッシュ・フロー	△729	△581
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	17	48
現金及び現金同等物の期首残高	2,302	2,319
現金及び現金同等物の期末残高	2,319	2,368

研究開発費 5億32百万円

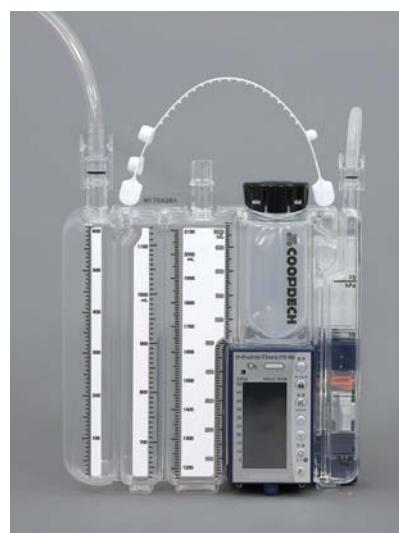


研究開発費は、5億32百万円(前期比11.1%増)となりました。MEMSデバイスを搭載したマイクロポンプ関連製品をはじめ、当社の中長期的な戦略製品への投資を推進したこと等によるものです。

営業利益 15億05百万円



営業利益は、15億5百万円(前期比12.0%減)となりました。これは主として、当期より新工場が稼働したことに伴う減価償却費などの固定費の増加及び新製品の開発の推進に伴う研究開発費が増加したこと等によるものです。



2018年3月22日

電動式低圧吸引器 「クーデック ミソラ」 製造販売認証取得

関西圏国家戦略特区における認定事業、マイクロポンプ関連製品の第一号製品となります。

電動式低圧吸引器は弱い陰圧を発生させる装置であり、ドレナージの目的で使用します。

ドレナージとは、患者の体内に貯留した血液、膿などの体液を体外に排泄する手技であり、部位によって使用する吸引器が異なります。本品は、気胸や肺がんなどの肺切除後に胸腔の中の気体や排液を吸引することを目的とした製品です。

MEMS技術を応用した最初の製品として、既存製品よりも製品サイズの小型・軽量化を実現し、新技術として患者が咳き込んだ時に起こる急激な圧力変化を解消し、その時に起こりうる感染を予防するメカニズムを開発したことにより、患者のQOL※向上、医療従事者の負担軽減や医療安全の向上を期待しております。

当社は、今後もMEMS技術を応用した医療機器の小型・軽量化をテーマとして高性能でありながらも低コストな医療機器を順次市場投入し、MEMS関連製品を経営の柱の一つとして育成、強化してまいります。

※QOL(クオリティ・オブ・ライフ、Quality Of Life)とは、「生活の質」「生命の質」と訳され、患者様の身体的な苦痛を取り除くだけでなく、精神的、社会的活動を含めた総合的な活力、生きがい、満足度という意味があります。

2015年11月27日、「マイクロポンプ(MEMSデバイス)を用いたディスポーザブル型医療機器の開発」について、内閣総理大臣より関西圏国家戦略特区における事業として認定

第一号製品として電動式低圧吸引器「クーデック ミソラ」開発

2018年秋の発売に向け準備中

会社データ

会社概要 (2018年3月31日現在)

社名	大研医器株式会社
設立	1968(昭和43)年11月5日
代表取締役社長	山田 満
売上高	85億8,527万円
従業員数	188名
本社	〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号
業種	医療用機械器具製造販売、 医療用機械器具輸出入

役員一覧 (2018年6月22日現在)

代表取締役社長	山田 満
取締役	山田 圭一
取締役	山田 雅之
取締役	柳堀 真司
社外取締役	大工舎 宏
常勤監査役	上原 康司
社外監査役	岩城 本臣
社外監査役	北山 涼一

株式情報 (2018年3月31日現在)

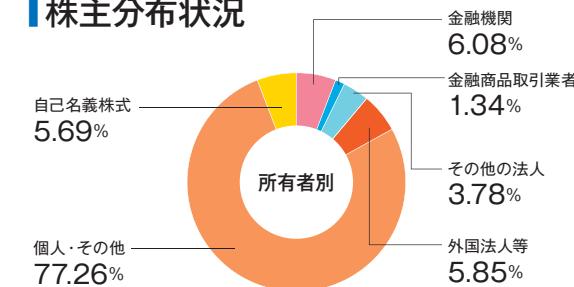
株式の状況

発行可能株式総数	103,360,000株
発行済株式の総数	31,840,000株
株主数	19,750名

大株主	持株数(株)	持株比率(%)
山田 圭一	5,877,760	19.58
山田 満	5,433,880	18.10
山田 雅之	2,595,360	8.64
山田 米子	1,068,720	3.56
公益財団法人山田満育英会	700,000	2.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	422,900	1.41
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	373,700	1.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	341,400	1.14
一般財団法人山田満音楽芸術振興会	300,000	1.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	296,000	0.99

※当社は、自己名義株式を1,813,257株保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己名義株式を控除して計算しております。

株主分布状況



所有者別分布状況	株主数(名)	株式数(株)	百分率(%)
金融機関	19	1,934,800	6.08
金融商品取引業者	32	426,946	1.34
その他の法人	103	1,202,400	3.78
外国法人等	87	1,863,416	5.85
個人・その他	19,508	24,599,181	77.26
自己名義株式	1	1,813,257	5.69
合計	19,750	31,840,000	100.00

株主メモ Stockholder Memo

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <http://www.daiken-iki.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



医療社会を未来する——

大研医器株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル14F

TEL:06-6231-9901(代表)

<http://www.daiken-iki.co.jp/>